

3・29三里塚現地へ

日帝・中曽根が、国鉄分割・民営化の大失敗と防衛費一割突破、売上税問題での自民党内の混乱と労働者・人民の反撃の前に大乱調をきたしているなかで、三里塚現地において中曽根・空港公団をさらに追いつめる闘いが全力で闘いぬかれています。三月九日には、成田用水工区内の高谷川で千葉地裁による現況検証が行われ、高谷川の川床が私有地であることがますます鮮明になった。また敷地内では一日のべ三百台のダンプカーが走り回り、敷地内農民の生活を破壊しようとする攻撃に対し、断固として「農地死守」をかかげ反撃している。この不屈の闘いにこたえ、3・29三里塚へ総決起し、続く中江、北原選挙に圧勝しよう。

高谷川現況検証を実施 私有地が立証される

三月九日に行われた成田用水差し止め訴訟の高谷川水路の現況検証は、反対同盟の鈴木幸司、萩原勇一、秋葉義光、龍崎敏博の四氏を先頭に多数が立ち会い、十一ヶ所の水路の幅と深さ、田んぼの形などの調査が行われた。

この結果、水路に残っている柳の株とクイなどにより水路の川床が国有地などではなく私有地であることが次々に明らかになり、県当局や用水推進派に大打撃をあたえた。

このことにより年度内用水完成という敵のプランを完全に粉碎する大勝利が勝ちとられた。

「早期着工を望まぬ」 ―八割を超える―

しかし、国鉄問題や売上税問題で危機を深める日帝・中曽根は、なんとかこの危機を乗り切り、威信を回復する唯一の手段として二期を強行してきた。

一日のべ三百台のダンプカーが山砂搬入のために走り回り、敷地内農民の生活を破壊しようとしている。この攻撃は「農地死守」をかかげ今もお不屈に闘い続ける敷地内反対同盟の勝利に迫いつめられた敵の側の危機のあらわれである。今もなお三十人以上の農民が生活し、

営農しているにもかかわらずこれを無視

・抹殺しようとする、この人を人とも思わぬ敵の攻撃に対して敷地内からも断固として反撃がたたきつけられている。

また、空港周辺市町のひとつである下総町で行われた住民アンケートでは「騒音などに不満や不安があり、早期着工は望まない、という答えが八割を超えた」（三月十四日読売）という結果になっている。これこそ住民の声だ。

闘う国鉄労働者の大隊列を

あと四日とせまった3・29三里塚現地闘争へ、この一月から三月の闘いの成果をかけて全力で結集し、「四月一日」を目前にして闘う国鉄労働者の大隊列を現し、中曽根・当局・鉄道労連の思惑をうち砕く総決起の日としなければならぬ。

この大結集の力をもって中江・北原選挙に圧勝しよう。

「早期着工望まぬ」

「守る会」が住民アンケート
強い騒音への不満

三月十四日
読売新聞

成田空港 二期工事

成田空港の二期工事は「必要だが住民の納得の上での着工が約六割、切実な要望は後期飛行の制限や騒音の軽減―成田空港から郷土とくらしを守る会（会長・木村初彦氏、下総町）は十一日、西原町で実施した住民アンケート結果を発表した。

アンケートは、昨年十一月に二期工事が着工されたのを機に、二期工事や周辺対策について周辺住民がどう考えているかをまとめるのが狙い。それによると、二期工事についての考え方は、「必要だが住民の納得の上で」が四百三十世帯と最も多く、回答の六二％を占めた。「絶対必要。出来るだけ早く」は一七％、「必要かどうか、もう一度検討すべき」が一六％、「必要でない」一六％だった。